

“真の笑顔と活気あふれる職場、の実現

“生活の豊かさ、と“働きがい、を実感できるJR東日本をつくりあげるために立ち上がろう

JR東日本は、2023年度夏季手当においては「基準内賃金の2.5ヶ月分に50,000円を加えた額とする」と回答した。この低額回答は、コロナ禍の苦しみを乗り越え悲願であった黒字化を達成したJR東日本グループに集うすべての仲間の3年間に及ぶ努力を踏みにじる行為そのものである。

「物価高に賃金が追いついていない。預貯金を切り崩して生活をしている苦勞がわからないのか」「黒字必達で頑張ってきたが何も報われない」「社員に対する研修や委員会活動の評価、柔軟な働き方などの環境を整備することが“ヒトへの投資”と会社は誤魔化している。本当の“ヒトへの投資”とは、黒字化で確保した儲けを賃金や夏季手当で支払うことだ」「この低賃金で成長？家族の幸福？」これが組合員・家族の真実の声であり、その不満・失望・怒りに満ちた感情は日増しに高まっている。

会社回答では「直近の業績と経営状況、社員の生活実感、物価上昇等の社会的動向、増加傾向にある有利子負債や様々なコスト上昇など取り巻く環境の厳しさを考慮した結果」と強調した。また、こともあろうか、2022年度夏季手当に関する申し入れ団体交渉妥結時に「黒字を達成した際には社員への還元を実施する」との確認事項を「労使の合意事項として一字一句確認したものではない」と事実を覆した。この確認事項は組合内外に広く周知してきたが、会社からこの間一度たりとも「事実と反する」との指摘を受けたことはない。

会社は、黒字化を達成するや否や、都合良く解釈し団体交渉に誠実に向き合わず、言葉巧みに事実を矮小化する姿勢に変容した。JR東日本の持続的成長のための必要な事業投資にもかかわらず、その投資によって利益が圧迫される責任を社員に押し付けること自体、企業経営として本末転倒である。私たちは、JR東日本グループのすべての仲間の努力によって成し得た3期ぶりの黒字を「成長と分配の好循環」として、公正・公平に享受されるよう追求し続ける。

中央本部は、回答後直ちに「緊急全機関代表者会議」を開催し、会社回答の欺瞞性を暴き、真実を明らかにするとともに、現場の努力に対する“正当な評価、”生活の豊かさ、を実感できる賃金を実現するための職場討議をつくり、組織拡大につなげることを138名の仲間とともに確認した。

そして、6月8日14:00から夏季手当回答に対し、これまでの組合員の労苦と悲痛な声を真摯に受け止めさせ、以下の3点を改めて確認した。

- ・現場の皆さんには、コロナ禍でありながら感染対策に取り組み、安全・安定輸送や更なるサービス向上にご尽力いただいた結果、3期ぶりの黒字とすることができた。奮闘に感謝申し上げます。
- ・組合員ならびに社員の声をしっかりと受け止めていく。
- ・「変革2027」にあるように、会社の持続的成長をつなげていくためには、社員の働きがい・労働条件向上・健康増進が不可欠であり、それらを取り組むことで社員・家族の幸福の実現を図っていく。

私たちは、決して諦めず“生活の豊かさ、が実感できる労働条件・労働環境の実現に向けて、輸送サービス労組運動を堂々と推し進めていく。それは、組合員が主役の運動であり、すべての仲間と「共創」する実践である。

6月7日、東京都労働委員会において「JR東日本八王子駅パンフ配布処分事件」に対し、全部救済命令が下された。組合を紹介するパンフレットを配布するという正当な組合活動を行ったことを理由とした処分は、不利益扱いに当たるとともに組合活動を不当に制限するものであると断罪し、会社による不当労働行為の事実が白日の下に晒された。

8月10日には、脱退パワハラ訴訟の判決を迎える。「あったことをなかったことにはできない」と訴え、規制と排除、差別を許さず健全なJR東日本を取り戻すための“正義、を求め、私たちは更に前進し続ける。

すべてのステークホルダーの価値を高めていくことが求められている時代に逆行した非常識なJR東日本を、人間尊重・現場第一の健全な企業へとつくり変えられるのは、一人では弱い労働者の力を結集していくことでしか成し得ない。

誰一人として、傍観者であってはならない！今こそ、JR東日本の未来を創造するために、責任をもって行動するときだ。ともに立ち上がろう！

2023年6月8日
JR東日本輸送サービス労働組合
中央執行委員会